

花の進化園の植栽変更について

濱谷修一・信太千帆

広島市植物公園では、開園以来「新エングラーの分類体系」に準拠して科名などの表記を行ってきた。花の進化園は、植物（主に被子植物）を系統進化の道筋に沿って植栽しているコーナーであるが、そのよりどころとするものは、同様に「新エングラーの分類体系」であった。

ところで、分子系統学的手法を用いた APG 分類体系の第 3 弾（APGIII）が 2009 年に発表された。APGIII は 2003 年の第 2 弾（APGII）よりもさらに細かい修正や不明箇所の確定が進み、科より大きな分類レベルでの解析はほぼ終了したように見受けられる。新しく刊行される書籍などでも APG 分類体系に準拠した記載が行われる

例が増えており、植物公園での科名等の表記も移行の必要に迫られている。

そこで、将来の園全体での移行に先立ち、花の進化園の植栽を APG 分類体系に準拠したものに切り替え、来園者に新しい分類体系を知ってもらうきっかけづくりを行うこととした。

移行作業は平成 27 年の夏ごろから、季節ごとの展示植物の植え替えにあわせて開始した。この記事を書いている年末には移植可能な植物についてはほぼ移動が完了している。以後、新しい科名、学名で記したラベルへの付け替え、目レベルでの解説の作成を行う予定である。

なお、大きくなった樹木の移植は極めて困難であるため、当面は現在の位置に植えておき、解説を付けて本来あるべき位置を紹介するなどの対策を講じる予定である。

植栽位置は、概ね下の図の通りである。

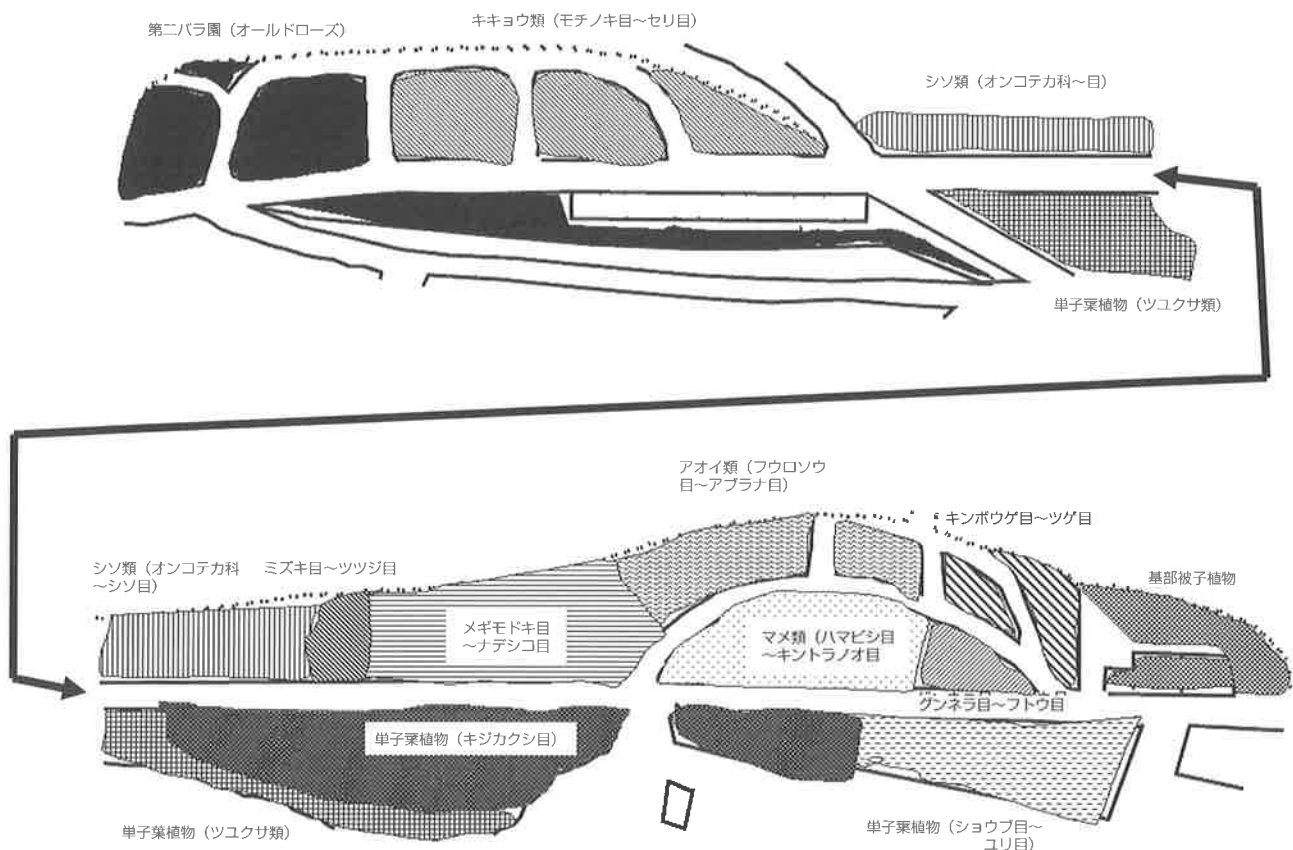


図. 植物の大まかな配置図